



岩手県教育研究所連盟事務局  
<http://www1.iwate-ed.jp/kenkyouren/>  
 〒025-0301 花巻市北湯口2-82-1  
 平成17年1月20日発行 第4号

平成16年12月3日(金)に開催された平成16年度岩手県教育研究所連盟所員研修会の講義は、宮城県学校活性化プロポーザルモデル事業指定校である塩竈市立第三中学校の武田光彦校長先生による「学校活性化大作戦」でした。その講義内容の要旨を紹介いたします。



# 「学校活性化大作戦」

宮城県塩竈市立第三中学校長 武田光彦先生

<http://www.siogm3-j.myswan.ne.jp/>

## 1 はじめに

「学校活性化プロポーザルモデル事業」は、宮城県が新規に立ち上げた平成15年～17年の3年間の事業である。各指定校に約百万円の事業費が支給されるとともに、指定期間中の校長の転任なしという事業である。

本校は全校生徒数323人で、塩竈市立第三小学校と同一の学区であるため、ほとんどの生徒は義務教育9年間を同じ仲間と共に過ごす。教職員の努力と家庭、地域社会の協力とあいまって、明るく楽しい学校生活を過ごしている。

学校課題として第一にあげられるのは、学力向上と教職員の指導力の向上である。第二に、不登校生徒に対する対応の充実、第三に、生徒会を中心にした主体的活動の活性化や小中連携、家庭や地域社会との連携に一層力を入れて取り組むことである。これらの課題の解決を目指して、校長として事業指定を受けるべく手を挙げたのである。

## 2 学校活性化の取組について(立ち上げ時)

本校の取組が順風満帆なスタートを切ったかというところではない。立ち上げ時に教職員から次の4つの質問を受けた。忙しさは?(中身の濃い忙しさは当然であるという共通認識を持った) 学校公開は?(少なくともいいいややらなければならない公開はない) 百万円の用途は?(基本的に各学校の事業計画にそって使うことができる) イメージが湧かない(私もである。みんなで揃っていこうと申し合わせた)。

そして、何に取り組むべきか教職員各自に考えさせ、校内プロジェクトチームが協議した。それを土台にして、学力の向上と教職員の資質の向上を核心にした6つのプロジェクト案をまとめた。すなわち、

以下の6つのプロジェクトを軸とした「学校活性化大作戦」を展開することとした。

- 学力向上プロジェクト
- 生徒会活動プロジェクト
- 不登校対策プロジェクト
- 小・中連携プロジェクト
- 開かれた学校プロジェクト
- 学校評価プロジェクト

## 3 学校活性化の取組について(H15)

多様な価値観の社会と日々大きく変化する時代であって、何が良くて何が正しいのか、ともすると分からない時代である。しかし、私は考える。

「生活のために仕事をするのは三流の生き方、仕事をうまくこなすのは二流の生き方、仕事を通して生き方を磨くのが一流の生き方」であると。そして、職員には、そのために次の2つのことをやって欲しいと伝えている。1つはハウレンソウ(報告・連絡・相談)をきちんとやること、2つめは自信と責任を持ってやろう、ということである。

初年度の学力向上プロジェクトでは、授業研究による資質向上と授業改善、3年間を見通した定期考査の実施、各種検定試験への挑戦、情報リテラシーの育成、選択教科の充実、ゆとりある教育課程(水曜日は4校時限とし、ノー部活デー)に取り組んだ。ただ、授業研究会は計画10回のうち5回しか実施できず、また質的にも指導目標が不明確な授業もあるなど、問題が残った。

生徒会活動では、討論集会開催と自主的活動に力を入れた。ノーチャイム制導入や生徒会目標、生徒会予算の配分などについて白熱した討論集会などが行われた。

不登校対策では、教育相談の充実を図る環境整備や夜間学習会の実施等を開始した。夜の学習会はノ一部活デー（水曜）の夜を活用し、基礎・基本の定着を目指して行うもので、10月～3月まで計18回行い、延べ73人の生徒が参加した。不登校はさまざまな要因があると思うが、私は多くの不登校生徒に、生き方が弱いこと、家庭（親）の教育力が弱いことの2点を強く感じている。初年度の取組の結果、年度当初25人だった不登校生徒は年度末に14名になった。

これら以外に、初年度は、小・中連携、保護者・生徒のアンケート、学校支援委員会などにも取り組んだ。学校支援委員会は学校評議員を含む18名からなる組織である。

#### 4 学校活性化の取組について（H16）

2年目の「学校活性化大作戦」は、1年目の取組をさらに発展・強化・深化させるものになっている。

学力向上プロジェクトでは、年間10回の授業研究の完全実施と、市内中学校の一斉授業研究会に取り組んでいる。市内中学校の授業研究会は7月、9月、10月に実施したが、原則としてその日は市内の中学校の先生方は他の出張なしで参加するものである。分科会は褒め言葉だけに終わらず、徹底的に議論し、教員の質の向上をめざすものになっている。中学校は教科担任制ということもあり、教科の授業が学校生活の中心とも言える。私は「授業で勝負できる先生をつくりたい」といつも考えている。授業から生徒指導ができるからでもある。2年目の学力向上プロジェクトでは、他に単元導入時の学習目標の設定や自己評価の試み、「年間学習目標一覧」及び「学び方指導のための手引き」の作成準備、各種検定試験への挑戦（漢字検定、文章検定、英語検定、数学検定）、ゆとりとメリハリのある教育課程の実施等も行っている。

生徒会活動プロジェクトでは、学級での話し合い活動の重視と中央委員会の活性化、実行委員会形式による生徒の自主的活動の促進に取り組んでいる。



生徒たちは楽しいフェスティバルを自分たちの手で企画・立案し、運営している。来年は流しそうめん大会をという声もあがっているようである。

不登校対策プロジェクトでは、1年目の取組を強化・継続し、教室復帰を促すための別室指導体制の確立と夜間学習会の充実に取り組んでいる。生徒理解とカウンセリングの力を付けるための研修の実施や、生徒・保護者との信頼関係と連絡体制の強化にも努めている。昨年度末に14名だった不登校生徒は現在6名まで減少し、その6名もほとんど学校に来るようになったため、夜間学習会は開店休業状態になっている。先生方に変なご苦労をおかけした夜間学習会であったが、非常に大きな実を結んだと思っている。

小・中連携プロジェクトは、小・中連携のための情報交換や情報公開の実施、部活動とクラブ活動を通じた児童生徒の直接交流、情報教育及び英語活動等の連携カリキュラムの作成に取り組んでいる。

開かれた学校プロジェクトでは、WEBページによる教育活動の発信、学校参観の積極的実施、学校行事等の企画立案への保護者の参画などを行っている。

学校評価プロジェクトは、保護者対象（1回）及び生徒対象（2回）のアンケート調査の実施と結果公開、学校支援委員会の実施などに取り組んでいる。

#### 5 学校活性化の取組について（H17）

来年度は「学校活性化大作戦」の最終年度になる。学力向上も生徒会活動も不登校対策も、すべての取組を徹底し、充実させる。特に不登校は必ず「0」にする。

「学校活性化大作戦」も2年近くたち、時々ミスも発生するようになってきている。そこで私は、改めて2つのことを忘れないようにと話をしている。1つは「仕事に対する緊張感」であり、もう1つは「顧客（子ども）に対する愛情」である。

#### 6 おわりに

「学校活性化大作戦」に2年間取り組んできて、生徒の活発な取組と教職員の意識の変化という2点で大きな改善が見られたと思う。特にホウレンソウが良くなり、会議が活発になった。また、学年だよりなどの通信には子どもの名前や活動が多く見られるようになった。

同時に、学校を活性化させるための更なる条件整備の必要性を感じている。特に部活動をもっと活性化させたい。そのためには出張回数を本当に必要なものだけに縮減する必要があると考えている。

最後に、学校活性化はアドバルーンではない。当たり前前を当たり前前にきちんと取り組むことだ。しかし、その当たり前前のごとくの大変さを今痛感している。これは逃げられることではない。最後まで邁進し続ける覚悟である。

午後の研究協議は、学校経営、学習指導、特別支援教育の3つの分科会に分かれて行いました。午前の武田校長先生の講義の余韻の残る中で、どの分科会の研究協議もとても活発で内容の濃いものでした。

### 第1分科会（学校経営等）

司会・助言 及川芙美子教科領域教育室長  
 " 牧野和男教科領域教育室研修主事  
 事務局 中川誠悦教育調査室長

少人数の分科会でしたが、それぞれの立場から学校を活性化させる取組や組織マネジメントの在り方、学校経営をめぐる諸問題について紹介をいただき協議を行いました。学校経営は学年・学級経営が命、そのためミドルリーダーの育成が課題、教師の資質向上は授業づくりで行う、学力フロンティアの指定校になり授業が向上した、ほめるだけの授業研究会では成長しない、ただ正論を言っても実践には結びつかない、板書や話し方・聞き方など授業の基礎・基本を指導する必要があるなど、貴重な提言をいただきました。まとめとして助言者から、学校評価をする場合は経営課題が共有されていることが前提であり、結果の評価だけでなくプロセス評価が重要であること、学校経営では協力して問題が解決できたという経験の累積が必要であり、システムが動きやすいものになっているか、各立場からどう支援していくのか明確になっているか、チェック機能の重要性についてお話をいただきました。



### 第2分科会（学習指導等）

司会・助言 小原昭徳教科領域教育室研修主事  
 " 福士幸雄教科領域教育室研修主事  
 事務局 石橋和彦教育調査室研修主事

学力向上対策、基礎・基本の確実な定着に向けた取組などを全員から紹介していただきながら、質疑応答を行いました。少人数指導や習熟度別指導などの指導形態・指導方法について、学習定着度状況調査の分析と事後指導について、CRTとNRTについて、授業改善方策について、朝読書と朝学習についてなどが協議の中心でした。

まとめとして助言者から、学力向上対策も基礎・基本の徹底も教材研究に裏打ちされた授業改善に尽きること、その際、授業における指導目標を明確にすることが重要であるというお話がありました。ま

た、Aと評価された子どももCと評価された子どもも大事であり、特にCの子どもへの指導の手だてを持ちたいものだというお話もありました。

22名と人数も多く、非常に活発な情報交換と話し合いがなされ、収穫の多い研究協議でした。



### 第3分科会（特別支援教育等）

司会・助言 杉本光生特別支援教育室研修主事  
 事務局 佐藤卓教科領域教育室研修主事

この分科会では、LD、ADHDなど特別支援教育にかかわる指導法や特別支援教育コーディネーターの在り方について、司会助言者より話題提供を行い、協議を通して理解を深めました。

協議では、特別支援教育コーディネーターの研修とともに一般教員における研修が必要なこと、ADHDの子どもに対する地域の温かい対応が必要なこと、そして検査や診断後の指導こそが重要であることなどが話し合われました。助言者からは、ADHDの子どもへの対応として、困っているのは本人が一番であり、小さな目標を決めて少しずつ積み上げること、

その子の得意なことから、よさを伸ばす指導を考へること、担任や親の思いを受け止めること、心理検査や研修などでセンターを大いに活用してほしいことなどが話されました。

県内各地の特別支援教育にかかわる状況について活発な交流がなされ、実りの多い研究協議となりました。



総合教育センターからのお知らせ

# 県教育研究発表会、近づく！

**Web配付の資料を持参のうえご参加ください！**

平成16年度岩手県教育研究発表会が2月8日(火)～10日(木)に開催されます。

今年度は総合教育センター(所員及び長期研修生)の発表資料は、発表会の約1週間前(2月1日(火)の予定)にWebページに掲載し、参加者の皆様が事前にダウンロード・印刷できるようにします。これらの資料は各分科会場では配付を行いませんので、ご注意ください。

皆様は、参加される分科会の資料をWebページから印刷して持参の上、参加くださるようお願いいたします。

**資料のダウンロードは2 / 1 (火)から**

**<http://www1.iwate-ed.jp/>**

- 1 期 日 平成17年2月8日(火)～10日(木)
- 2 会 場 岩手県立総合教育センター、岩手県立生涯学習推進センター
- 3 日 程 8日 講演会、分科会 9日 分科会 10日 研究授業
- 4 講演会 小島弘道先生(筑波大学大学院教授)  
「新しい学校の姿を求めて  
- 学校が評価され、選択される時代へどう立ち向かうか - 」

各教育研究所からの発表本数

盛岡市2本 花巻市1本 北上市2本 水沢市1本 大東町1本  
千厩町1本 遠野市1本 釜石市1本 宮古市1本 山田町1本 合計12本  
よろしく願いいたします。

~~~~~ 事務局から ~~~~~

塩竈市立第三中学校の武田校長先生の講義から、非常にたくさんのことを学び、また勇気を与えていただきました。武田先生はプロポーザルモデル事業における学校活性化の趣旨は、当たり前なのが当たり前でできる教職員の資質向上と自主的生徒の育成にあるということ強調されていました。意識改革の方向性を得た思いがします。塩竈三中が取り組んだ6つのプロジェクトは、本県の学校にとっても大変参考になると感じました。塩竈市ではすでに学校評議員制を導入しており、学校活性化のため保護者7名を学校支援委員会に加えて学校の意志決定に参画させている点も参考になると感じました。

また、武田先生のお話から、学校のリーダーには鉄のような強い意志と強いリーダーシップが必要であること、その裏には深い思慮と生徒・教職員に対する溢れるような愛情が大切であることを感じました。

さて、本年度は事務局が移動し慌ただしい1年でしたが、加盟機関の皆様のご支援・ご協力のおかげで、大過なく事業を推進することができました。総会・研修会のほかに6月にはホームページの立ち上げと県教連メルマガの発行も開始することができました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。